

板橋区かわまちづくり基本計画の検討状況について

1 板橋区かわまちづくり基本計画策定に向けた基本的な考え方・方向性

- 板橋区かわまちづくり基本構想「ITTA KAWAMACHI PROJECT」(以下「基本構想」)を具現化するため、荒川河川敷及び周辺施設の状況、河川区域の特殊性などを踏まえ、課題を分析し、「板橋区かわまちづくり基本計画」(以下「基本計画」)の策定を進めていく。
- 国の「かわまちづくり支援制度」を活用し、荒川河川敷におけるにぎわい創出をめざすため、河川管理者である国土交通省荒川下流河川事務所と役割分担について協議し、連携・協力のもと、適切な整備を行う。
- 令和7年度末をもって計画期間が終了する板橋区基本構想及び板橋区基本計画2025の次期計画や都市づくりビジョン等、個別計画などの方針や課題を踏まえ、板橋区かわまちづくりの基本理念を実現する具体的な取組を、令和7年度中に策定する基本計画にて示す。
- 民間活力を導入し、効果的・効率的な事業運営について提案を受け、広大な河川敷特有の課題解決を図るとともに、「自然体験型アーバンリバーパーク」としての新たな価値創出をめざし、公民連携を推進する。

2 今後の主なスケジュール

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
区・国	○サウンディング型市場調査、アンケート調査等にて、意見収集を実施	○基本計画(原案)をかわまちづくり協議会、庁議、議会へ報告	○ラグビー場整備 ○プロムナード整備	
公募事業者			○運営事業者公募	○運営事業者整備設計

3 基本計画推進の5つのポイント

- (1) 区のブランドとなる充実したコンテンツの創出**
 - いたばし花火大会や板橋 City マラソンは区の誇るブランドで、満足度も高い。既存のイベントを活かしつつ、誰もが楽しめ、魅力あるコンテンツをエリアごとに展開して、新たな核となるブランドを創出する。
- (2) 公民連携の推進**
 - 求められる公共サービスの多様化・複雑化、財政面や人的資源の確保などの行政課題が山積している今般、かわまちづくりを推進していくためには、庁内連携はもとより、公民連携の視点が欠かせない。民間事業者の優れたノウハウを活用して、効果的・効率的な整備及び安定した運営をめざす。
- (3) まちづくりとの連携**
 - 荒川河川敷までは、交通アクセスに課題があり、車等での来訪者が多くなっている。また、周辺の高島平エリアでは、高島平団地の都市再生として、新たなまちづくりが進んでいる。まちづくりを契機と捉え、河川敷までのアクセス改善や高島平のまちづくりと連携し、課題解決に取り組む。
- (4) 既存機能の充実**
 - 荒川河川敷は、野球等のスポーツの場として利用されている一方、区の貴重な自然資産であり、利用と保全の両立を図っている。荒川河川敷が有する機能のさらなる充実に向けて、スポーツ利用者の利便性向上や、豊かな自然を活かした水辺空間の活用、みどりの質の向上に取り組む。
- (5) 防災機能の活用**
 - 第1期では、連絡通路を整備し、荒川氾濫時の緊急一時退避場所となる新河岸陸上競技場からの脱出ルートが確保される。特色である防災の視点を具現化しつつ、かわまちづくりを推進する。

【荒川河川敷に関わる参考数値・取組】		【アンケート調査等から見受けられる傾向や主な意見】													
○河川空間利用者	夏:1,296人 秋:3,163人 (R5年度) 【参考 H26年度 夏:1,587人 秋:8,946人】 【内訳】利用場所別:高水敷※ 夏1,169人・秋1,687人、堤防 夏124人・秋1,471人、 水際・水面 夏3人・秋5人 ※常に水が流れる低水路より一段高い部分の敷地(野球グラウンド等) 利用形態別:スポーツ 夏1,111人・秋1,608人、散策等 夏185人・秋1,553人、 釣り・水遊び 夏0人・秋2人	○令和6年度アンケート調査【荒川河川敷でやってみたいこと】※ ※18選択肢(複数回答可) 【全体の上位5項目】 荒川放水路通水100周年アコバ-サーフェス、区民まつり、農業まつり													
○区設置駐車台数	約900台(戸田橋下340台、新河岸水再生センター前396台など)	<table border="1"> <caption>【アンケート調査等から見受けられる傾向や主な意見】</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>バーベキュー</td> <td>256</td> </tr> <tr> <td>カフェ・レストランの利用</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>散策・ウォーキング</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>キャンプ</td> <td>147</td> </tr> <tr> <td>水遊び</td> <td>147</td> </tr> </tbody> </table> <p>(n=502)</p>		項目	件数	バーベキュー	256	カフェ・レストランの利用	170	散策・ウォーキング	170	キャンプ	147	水遊び	147
項目	件数														
バーベキュー	256														
カフェ・レストランの利用	170														
散策・ウォーキング	170														
キャンプ	147														
水遊び	147														
○江アサイクルポート台数	348箇所(R6.7末時点 区内全域)	【年代別の傾向】 ・どの世代でもバーベキューのニーズは高く、60歳以下では、カフェ・レストランの利用、散策ウォーキングのニーズも高い ・20歳代以下及び50歳代以上では、音楽フェス等のニーズも高い ・50歳代以上では、サイクリングのニーズも高い													
○周辺施設	堤防内:生物生態園、荒川戸田橋陸上競技場・野球場・緑地 堤防外:新河岸陸上競技場、新河岸庭球場、リサイクルプラザ	【その他の選択肢】 音楽フェス等のイベント、サイクリング、ランニング、SUP・カヌー等の水面アクティビティ、サッカー、野球、ドッグラン、BMX・スケートボード等のアバンスポーツ、グラウンドゴルフ、マウンテンバイク、バスケットボール、ラグビー、その他													
○アクセス	荒川戸田橋陸上競技場:高島平駅 自転車10分・徒歩25分 西台駅 自転車6分・徒歩19分 リサイクルプラザ:高島平駅 自転車8分・徒歩30分 西台駅 自転車6分・徒歩24分	○荒川の印象(R4年度 国調査) 1位:自然が豊かである 2位:景観が良い 3位:自然観察やレクリエーションがしやすい	○R5年度 区民意識意向調査 【区のブランドとなり得るもの】 1位:大規模イベント(花火大会、区民まつり、農業まつり、Cityマラソン) 4位:武蔵野台地の崖線や赤塚の森、スポーツ等に親しめる荒川河川敷など緑豊かな自然												
○来場目的(3km範囲住民)	散策・ジョギング…55.9%、通勤・通学等の帰り道…16.0%(R4年度) ⇒日常利用が主	○かわまちづくりの認知度 区:39.7%(R6年度) 国:20.8%(R4年度) ⇒国調査と比較し2倍程度認知度は高い	【区のブランド・魅力発信に関わる認知度】 1位:いたばし花火大会 4位:板橋 City マラソン ⇒荒川河川敷に関する取組、印象が高い												
○主な区のイベント	親子たこあげ大会(R5年度4,000人)、いたばし花火大会(R5年度:55万人)、 板橋 City マラソン(R5年度:約10,000人)														
○災害時利用(地震時)	広域避難場所、臨時ヘリポート(候補地)、水路移動用拠点(候補地) など														

板橋区かわまちづくり基本計画の検討状況について

【かわまちづくり基本計画推進の5つのポイント】



魅力あるコンテンツの展開

2 公民連携の推進

○民間事業者のノウハウを活用し、効果的・効率的な整備及び安定した運営をめざします

- 例) ・ Park-PFI 等、公民連携手法の検討・導入
 ・ 施設の修繕・更新等、効果的な活用
 ・ 駐車場、リサイクルプラザ等、関係施設の機能向上
 ・ 民間活力によるインパクトのある事業展開

1 区のブランドとなる充実したコンテンツの創出

○誰もが楽しめる魅力あるコンテンツをエリアごとに展開し、核となるブランドを創出します

- 例) ・ フローティングレストラン、カフェ等、憩いの提供
 ・ 音楽フェス、BBQ場等、にぎわいの充実
 ・ アーバンスポーツ、ラグビー場等、新たなスポーツの機会提供
 ・ プロムナード、新たなモビリティ等、河川敷内の回遊性向上



民間施設との連携等、交流人口の増加

3 まちづくりとの連携

○河川敷までのアクセス改善や高島平のまちづくりと連携し、課題解決に取り組みます

- 例) ・ 河川敷までのアクセス改善を図る移動手段検討
 ・ 新たなモビリティ導入等、自転車+の活用
 ・ 高島平駅を中心とした河川敷までの交流軸の形成
 ・ 民間施設との連携等、交流人口の増加

○交流人口増加やにぎわい創出につながる水辺空間の形成



ITTA KAWMACHI PROJECT 基本理念 自然体験型アーバンリバーパーク

I スポーツ・文化
スポーツ・カルチャーイベント発信の場

II 水辺のにぎわい
水辺における屋外体験の場

V 防災
水災害時に命を守る場

III 自然・環境
生物多様性を学べる場

IV モビリティ
テーマパークのようなモビリティ体験の場

荒川河川敷の価値を最大限に引き出し、板橋区のブランドとして創造・発信することで、交流人口の増加やにぎわいの創出につながる水辺空間を形成します

○新河岸地区 水害対策「連絡通路」の整備



4 既存機能の充実

○スポーツ利用者の利便性向上、河川環境におけるみどりの質の向上に取り組みます

- 例) ・ かわまちづくりの拠点としてリサイクルプラザを改修
 ・ 移動式トイレ、キッチンカー等、河川敷利用者の利便性向上
 ・ 生態園・親水護岸等、自然・四季を感じられる水辺空間の活用
 ・ 多様な生物や河川景観の保全・創出



拠点となるリサイクルプラザ



上流野球場側の「にぎわい」促進

5 防災機能の活用

○板橋区の特徴である防災の視点を取り入れたかわまちづくりを推進します

- 例) ・ 防災の視点を整備等に反映
 ・ 連絡通路整備による、スポーツ利用者等の回遊性向上
 ・ 第1期整備をきっかけとした、上流野球場側の取組推進
 ・ コミュニティ防災と連携した、水害等の防災意識啓発推進